

高度先進麻酔科学実習（有坂博史）

Training of Anesthesiology (Hirofumi Arisaka)

キーワード

- ① 麻酔科学
- ② 全身管理
- ③ オレキシンの作用機序
- ④ 三叉神経痛の伝達部位の解析
- ⑤ 睡眠時無呼吸患者の全身管理

関連する学位授与方針

- ①
- ②
- ③

関連する教育実施方針

- ①
- ②
- ③
- ④

授業概要

麻酔科学は、本来生理学、薬理学などの基礎医学に根ざし急性期の内科学、外科学などの知識を組み入れた周術期の全身管理学である。本実習では、術前診査を通して、全身管理の能力を身に付けることを第一目標にする。特に検査データの読み方、問診の方法などの能力の習得を目指す。さらに麻酔の実習を通して危機管理を学び、麻酔科学・全身管理学の臨床研究手法を身につけることを目的として開講する。

授業科目の学修目標

薬理学、病態生理学、内科学的な医科の知識を駆使して、理論的な根拠に基づいた周術期管理を行える基礎を身につけることにより歯科治療時の難しい全身偶発症にも対応できる実力を修得することを目標にする。また麻酔科学に直結するオレキシンの作用機序、睡眠時無呼吸の全身管理についての研究について修得する。

授業計画

- ① 麻酔科学術前管理の実習 15コマ
術前の問診、データ解析、合併症の評価などを通じて全身管理の評価能力を教授する。
- ② 麻酔科学術中管理の実習 15コマ
日本麻酔科学会麻酔科指導医による麻酔管理・全身管理を教授する。
- ③ 麻酔科学術後管理の実習 10コマ
- ④ 睡眠時無呼吸症候群の全身管理 10コマ
- ⑤ 基礎研究実習
オレキシンの生理・作用機序 10コマ
麻酔科学のみならず「人間の睡眠」の根本に迫る、高い評価を得ているオレキシンの研究方法を教授する。
実習担当教員 有坂博史 杉田武士

教科書および参考書

- ①新・病態生理でできた内科学シリーズ 医学教育出版社 ②麻酔への知的アプローチ 稲田英一 日本医事新報社

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

特別な予備知識は必要ありません。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 麻酔科の基礎となる内科・病態生理・薬理学などに基づいた術前評価ができる。
- ② 医科麻酔科を目標とした術中麻酔管理ができる。
- ③ 術後の呼吸管理、疼痛管理ができる。
- ④ 睡眠時無呼吸症候群患者の病態生理を理解し麻酔管理・全身管理ができる。
- ⑤ オレキシンの作用機序についての動物実験の理論を理解し実践できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	0%	0%	0%	90%	0%	10%

評価の要点

- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1.5%×60回=90%
- ・その他 学会発表を行う 10%×1回=10%

理想的な達成レベルの目安

麻酔科学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。